

2026年3月1日午前10時30分  
 受難節第2主日 主日礼拝  
 司会 伊藤愛子  
 奏楽 徳江由利

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあきつ)  
 前奏  
 招きのことば ヘブライ 2:17-18  
 讚美歌 297「栄えの主イエスの」 一同  
 交読詩編 18:1-7(P.22/18)

祈り 司会者  
 ≪関東教区お祈りカレンダー≫  
 鴻巣教会 深谷教会 深谷西島教会  
 (主の祈り)

讚美歌 291「み神の座を捨て」 一同

聖書 旧約:エレミヤ 2:7-11(P.1174)  
 新約:マルコ 3:20-30(P.66)

メッセージ『神の救いを認めない人々』  
 祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 447「神のみこころは」 一同

献金 一同  
 (献金感謝の祈り)

信仰告白(レントのライター 第2主日) 一同

頌栄 1(4)  
 祝禱 川上 盾 牧師  
 後奏  
 報告・紹介

＜招きのことば＞ヘブライ 2:17-18  
 イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人々を助けることができになるのです。

≪3月礼拝当番≫ 徳江由利 田村 啓  
 小林友栄 楠元 桃  
 奈良正太郎 鈴木容子

≪今週の集会・行事≫  
 ◎ 本日礼拝後 うどん食堂 3月定例役員会  
 ◎ 4日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈禱会  
 ◎ 5日(木) 牧師、上毛愛隣社委員会  
 ◎ 6日(金) 10:30 世界祈禱日集会  
 「ナイジェリアからのメッセージ」前橋バプテスト教会  
 ◎ 7日(土) 10:00 会堂清掃 A組

≪次週の主日≫  
 ◎ CS朝礼拝 9:15  
 ◎ 主日礼拝 10:30  
 メッセージ『いばらの道』  
 聖書:旧約:イザヤ 48:1-8(P.1140)  
 新約:マルコ 8:27-33(P.77)  
 讚美歌 299, 298, 304, 11(3)  
 交読詩編 31:8-14(P.36/32)

司会:畠中祥世 奏楽:川名ひさ子  
 ◎教会報委員会 礼拝後

≪予告≫  
 ◎ 紅雲町集会 12日(木) 10:30  
 ◎ 婦人会例会 19日(木) 10:30

≪報告≫  
 ◎ レント(受難節)の季節を過ごしています  
 イエス・キリストの十字架への歩みを覚え、自らの罪を顧み悔い改める期間です。キャンドルの火を一本ずつ消しながら、イエス・キリストの苦難を覚えます。レントが明ければイースター(復活祭)、今年は4月5日です。

◎ 世界祈禱日集会 (3/6 於・バプテスト教会)  
 世界祈禱日は、1887年米国の女性たちが、移住者や抑圧されている人々を覚えて始めた集会です。毎年3月第1金曜日に和解と平和を求める祈りの運動として教派を超えて広がっていきました。日本では1932年に始まり、第2次世界大戦中を除き、カトリック・プロテスタント諸教派の合同行事として毎年開催されています。今年のプログラムはナイジェリアの女性たちが作った式文で行ないます。  
 ◎ 「宣教キャッチフレーズ」募集中  
 教会案内看板を利用して、地域に届ける短い文章を募集しています。自作でなくても引用でもOK。「こんな言葉が掲げている教会なら行ってみたい」と思えるような言葉を考えてみませんか。随時募集中。



≪先週の集会≫

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	50	18	24,592
	ジュニア	シニア	計
CS午後礼拝	5	6	14
			25

《メッセージ》「神との関係の回復」  
 エレミヤ 31:27-34, マルコ 1:12-15(2月22日)  
 ▼今年もレントの季節がやってきた。レントの課題は2つ。①イエス・キリストの十字架への歩みを覚える。②自らの罪を見つめ悔い改める。「克己・修養の時」とも言われる。これは心地よいことではない。むしろ気の重くなる取り組みだ。▼しかしそれを信仰の大切な課題としてキリスト教は受け継いできた。イエスは宣教の初め、「悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。罪とは何か、悔い改めとは何か、改めて考えたい。▼キリスト教で言う「罪」とは、法律に違反する犯罪のことだけではなく、法律に違反してなくても罪の姿はある。強欲、差別・偏見、いじめの心、優越感、嫉妬、うそをつく心、自己中心、自己保身...挙げればきりがなく、これらのものが「ひとつもない」と言い切れる人はいないだろう。▼新約聖書が記されたギリシャ語において、罪を表す言葉は「ハマルティア」、その意味は「的の外れ」である。神の姿に似せて作られたにも関わらず、その姿にふさわしくない「的の外れな生き方をしてしまう...それが人間の罪、というのが聖書の理解である。的の外れな生き方をそのまま続けたのでは、人間は本当には幸せになれない...だから悔い改めるのだ。▼この悔い改めは人に強られるものではない。罰を恐れてしぶしぶするものでもない。自分で気付き受け入れ、決断していくことである。そのように悔い改めることによって神との関係が回復していくこと...それが赦しであり救いなのである。▼エレミヤの時代はバビロン捕囚の苦しみのであった。エレミヤはそれをイスラエルの罪に対する神の裁きと捉えた。するといつしかある言葉が語られるようになった。「先祖が饑餓いぶどうを食べたから、子孫の歯が浮く」...昔の人が選かったから今の自分たちが苦しまねばならない、という意味である。エゼキエル書18章にも同様の言葉がある。▼絶望して投げやりになる気持ちは分からなくもない。しかし、そのように他人のせいにして他責的な態度を取るところでは、人間の成熟に関する決定的な瑕疵(欠点)があると言わざるを得ない。それは自分自身を深く見つめる眼差しを失うことである。▼エレミヤはこの言葉を拒否し、そして言う。「かつて抜き、壊し、破壊し、滅ぼし、災いをもたらされた神が、今、彼らを建て、また植えようとしておられる」。裁きを下すのが神の目的ではない。神はイスラエルを救おうとされるのだ、と。▼そのような厳しく、そして慈しみ深い神の下で、人がみな自分自身の罪を振り返り、悔い改め、神との関係を回復すること...そこにこそ人間の「生きて甲斐ある人生」があることを示すのだ。▼私は「人はみな罪人」というキリスト教の決めつけが苦手であった。もっと明るく、楽しいポジティブな面を育て合いたい、と。しかしレントの課題は私たちに、ポジティブ面だけでなくネガティブ面も見つめることを求めてくる。それが人間の成熟なことって、そしてひとりひとりが本当に豊かな人生を歩む上において、欠かせない大切な営みだからである。